

## その1 やんばるマンガースバスターズを結成しました！！

今年の7月に、マンガース捕獲の中心となる捕獲作業チームとして、「やんばるマンガースバスターズ」を結成しました。また、公募により右の図のシンボルマークを作成しました。バスターズは、やんばるの森の林道沿いや林内にワナをしかけてマンガースを捕獲することを始め、より効率的に捕るためのワナの改良などをしていきます。

やんばるでのマンガース対策には、地域の皆様のご理解と応援が必要です。今後は、バスターズの取組についてより多くの方に知っていただき、さらに効率的、効果的に取り組んでいきたいと思っております。やんばるでのマンガース対策が少しでも前に進むよう、今後ともご理解と応援をよろしくお願いいたします。



やんばるマンガースバスターズの  
ロゴマーク

## その2 つつしき 8月から筒式ワナ（捕殺式ワナ）を使います ほ さつしき

やんばるからマンガースを完全排除するためには、早急に捕獲作業を増やす必要があります。

そこで8月から、新たな「筒式ワナ」も使うことにしました。これまで使ってきたカゴ型の「生け捕りワナ」に対して、「筒式ワナ」は捕獲と同時にマンガースを殺す捕殺式のワナです。重くて毎日の点検が必要な「生け捕りワナ」に対し、「筒式ワナ」は軽くて点検回数が少なくてすむため、捕獲作業の量を大幅に増やすことができます。



つつしき  
筒式ワナ

ワナに使われているバネがとても強いため、さわると危険です。ワナを見つけても絶対にさわらないでください。

「筒式ワナ」は林道沿いや林内に仕掛けるので普段は目にする方は少ないと思いますが、今後はワナの数もどんどん増やしていきたいと考えています。そのため、私有地にワナを置くことをお願いすることが多くなるかと思っております。よりいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

同じくマンガースが問題になっている奄美大島では既に使われており、大きな成果をあげています。やんばるでもマンガース根絶のために筒式ワナの使用が不可欠です。

このワナは在来の生きものが捕獲されにくい工夫がされていますが、一部の在来の生きものについては混獲を完全に防ぐことは困難であることから、当面、混獲の可能性のある在来の生きものが生息している可能性が低く、特にマンガースが多い大宜味村と東村で使い始めます。

## ニュースレターに関するお問い合わせはこちらへ

環境省やんばる野生生物保護センター  
〒905-1413 沖縄県国頭郡国頭村比地 263-1  
TEL: 0980-50-1025 FAX: 0980-50-1026  
e-mail: RO-YANBARU@env.go.jp

※ニュースレターのバックナンバー(旧号)は、やんばる野生生物保護センターで配布しているほか、環境省ホームページでもご覧いただけます。  
[http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m\\_2.html](http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m_2.html)

# やんばるニュースレター

発行：環境省やんばる野生生物保護センター



環境省では、やんばる地域の重要な自然環境を適切に保全し、地域の振興も図られるよう、やんばる地域を国立公園とすることを検討しています。ニュースレターでは、その検討状況についてご紹介していきます。

環境省では、今年度から、やんばる地域の国立公園の具体的な範囲や計画について検討を始めることとしています。

検討作業にあたっては、今年3月、検討会や地元座談会での意見を参考に環境省那覇自然環境事務所が策定した「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方」(以下、「基本的な考え方」)を指針として進めます。

今回はこの基本的な考え方の概要についてお知らせします。

なお、基本的な考え方の全文は、以下の環境省ホームページでご覧になることができるほか、やんばる野生生物保護センターで配布しています。

URL [http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m\\_2.html](http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m_2.html)



## やんばるのマンガース対策について ～地域の皆さんへのご連絡とお願い～

1. マンゴースの捕獲作業チームとして「やんばるマンガースバスターズ」を結成しました。同時に公募によりロゴマークを作成しました。作業車などにロゴマークを貼って作業していきます。
2. より効果的にマンガースを捕獲するために、一部の地域で筒式ワナ（捕殺式ワナ）を使います。このワナはバネがとても強いため、さわると危険です。絶対にさわらないでください。
3. 林道沿いに加え林内でもワナの数を増やしています。そのため、私有地にワナの設置をお願いする場合も多くなるかと思っておりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

詳しくは裏表紙をご覧ください。

# やんばる地域の国立公園に関する基礎的な考え方（概要）

- 1. はじめに（略）
- 2. やんばる地域の現状（略）
- 3. やんばる地域の範囲

この基本的な考え方における「やんばる地域」は、ノグチゲラやヤンバルクイナをはじめとする多くの固有種が生息し、生物学的に見てまとまりのある森林が比較的健全な状態で残る地域とし、国頭村、大宜味村及び東村を中心とする。また、周辺において一体的に保護と持続可能な利用を図ることが必要と考えられる地域も含める。

## 4. やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方

やんばる地域の自然環境は、世界的に貴重である一方で地域の人々のくらしや文化と密接な関わりを持って継承されてきたことから、保護と併せて持続可能な利用を図ることが不可欠。国立公園制度は、自然の風景地の保護と適正な利用の推進を目的としており、やんばる地域への適用は効果的である。

### やんばる地域の国立公園のイメージ

やんばる地域がどのような国立公園を目指すのかについて、イメージをまとめた。

- ・固有種を含む多くの種類の野生生物が生息している雰囲気を感じることができ、亜熱帯の森の豊かさを実感できる国立公園（生物多様性を実感できる国立公園）
- ・資源を将来にわたって持続的に利用できるよう、計画やルールに基づき一定の制限のもとで利用が可能となる国立公園
- ・地域とともに運営し、地域振興にも資するような国立公園

### 国立公園として保全・活用すべき資源

以下の資源を主要な対象として含むような国立公園区域を検討する。

- ・照葉樹林及びそこに生息する動植物
- ・地形や集落文化など（海岸景観、伝統的な集落と里地里山、祭祀などの文化等）

### 国立公園の管理運営の基本的な考え方

国立公園指定を検討する際には、指定後の管理運営も視野に入れて作業を進めることが重要である。以下の項目について留意事項等をまとめた。

- ・保全の質・目標の設定及び保全方針／・利用者へのサービス提供の考え方
- ・多様な主体の参画による計画策定と管理運営（環境省をはじめとする公的機関の役割と地域の積極的な参加）
- ・科学的データ整備、評価システム及び順応的な管理運営／・周辺地域との連携
- ・国民・住民に対する説明責任と国際的な情報発信

## 5. 国立公園の指定プロセスの原則

環境省が国立公園指定のための調整を進めるに当たって、進め方の原則をまとめた。

科学的データ、文化及び社会条件に基づく公園区域及び公園計画案の作成

- ・科学的データに基づき、かつ、文化及び社会条件を考慮して案を作成する。

指定プロセスにおける地域の意志の尊重

- ・地元住民の意志を十分に尊重するとともに、産業関係者等とはそれぞれの利害を考慮してきめ細かく対応する。
- ・調整作業は、関係各村及び沖縄県と連携して実施する。
- ・調整に係る資料や会議予定等については可能な限り公開する。

今年度は、国頭村内の一部地域をモデル地域とし、地域の方々と話し合いながら、公園区域や計画の検討を始めたいと考えています。検討の様子は、随時、このニュースレターでお知らせしていく予定です。

# やんばるのマンガース対策について

ここでは、やんばるでのマンガース対策についてご紹介します。

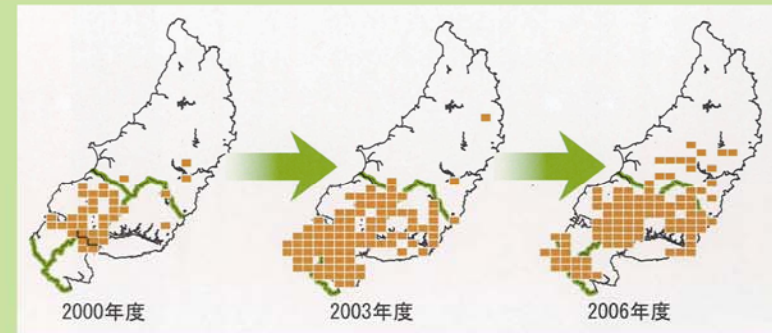
やんばるの生態系はマンガースの影響によって、壊れてしまう危機にさらされています。環境省と沖縄県では、これまでマンガースの捕獲を続けていますが、まだまだ十分ではありません。今、やんばるは「マンガースの増加と北上」と「捕獲による北上防止」のせめぎ合いの状態にあります。

## マンガースがなぜ問題か？

やんばるの生きものたちは、それぞれにかかわり合いを持って、やんばる特有の生態系を形づくってきました。もともとここにはマンガースやネコのような肉食のほ乳類はいませんでした。そのため、やんばるの生きものはマンガースのような肉食動物から身を守るすべを持っていません。

マンガースは、昭和43年（1910年）に人間によって沖縄島に持ちこまれた外来種です。那覇市周辺に十数頭が放され、数を増やしながらやんばるの森にも侵入し、徐々に北上してきました。平成15年（2003年）の調査結果では、沖縄島だけで約3万頭ものマンガースが生息していると考えられています。海外でも同じくマンガースが持ちこまれ、多くの動物たちが絶滅あるいは減少しています。

このままマンガースが増えてこの生きものたちが食べられ続けると、生態系のバランスはくずれ、やんばるの森らしさは失われてしまいます。やんばるの生きものたちを守り、生態系を復元させていくためにも、マンガースやノネコといった外来種をやんばるから取りのぞく必要があります。



マンガースの分布域の変化 ■ マンガースが捕獲された地域



## マンガースの捕獲

環境省と沖縄県では、国頭・大宜味・東の3村で、マンガースを捕獲しています。また、中南部に高密度に分布するマンガースの北上を防ぐため、大宜味村塩屋から東村福地ダムにかけて、マンガース北上防止柵を作りました。現在、この柵の北側で重点的に捕獲し、平成26年度末までに、柵の北側からマンガースを完全排除することを目標としています。

林道沿いや林内でよく目にする赤い布は、マンガースのワナを置く場所です。ワナはバスターズが仕掛けて点検し、在来の生きものがワナに入っていた場合は逃がします。現在、バスターズは22人で作業しているので、今おいてあるワナの全てを常に開けているわけではありませんが、定期的にワナを開ける場所を移動させながらまんべんなく捕獲できるようにしています。

右の図は平成19年度にワナを置いた場所（緑の点）とマンガースが捕獲された場所（赤の点）を表しています。平成19年度からは、マンガースがより多く分布している県道2号線から南側に捕獲作業を集中させています。また、許可を受けて米軍北部演習場の中でも捕獲しています。

昨年度は合計1284頭のマンガースを捕獲しました。ここ数年、捕獲地点の北上は見られていないものの、分布域の縮小も見られず、さらに捕獲作業を増やすことが必要となっています。

